

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立京都八幡高等学校（南） 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	1. 高校3年生 1組17名 2組23名 計40名 2. 人間科学科3年生 17名 3. 女子ソフトボール部 2名 4. 介護福祉科 1年21名 2年23名 計44名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ・ 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 部活動 女子ソフトボール部 )
4 目標 (ねらい)	八幡支援学校との交流や保健体育の授業において、ニュースポーツ・パラリンピック種目を体験することで身近なスポーツとして関心を高めるとともに、サポートの在り方からの関わりを学び、福祉マインドを深める。
5 取組内容	1. 教科において障がい者スポーツの実施 I  (1) 対象 高校3年 1組17名 2組23名 計40名 (2) 日時 7月、9～11月の体育の授業（1単位）において実施 (3) 場所 本校体育館 (4) 内容 ① 7月14日・21日 ボッチャの実施 ② 9月～11月 車いすバスケットボール、シッティングバレー、ペタンクの3種目を3グループに分かれて1時間1種目を順番に、各種目2回ずつ実施。 ③ 10月1日 ゴールボールの実施  車いすバスケットボールの様子 



シッティングバレーの様子



## 2. 教科において障がい者スポーツの実施Ⅱ

- (1) 対象 人間科学科3年 1組17名
- (2) 日時 10月19日(月) 3・4限「人間科学Ⅲ(総合的な学習の時間)」において実施
- (3) 場所 本校体育館
- (4) 内容 八幡支援学校高等部普通科3年との授業交流にてボッチャの実施

### ボッチャの様子



### 3. 4校合同ソフトボール部の部活動交流の実施

- (1) 対象 京都八幡高校女子ソフトボール部 2名  
八幡支援学校ソフトボール部 8名  
菟道高校女子ソフトボール部 2名  
南丹高校女子ソフトボール部 2名
- (2) 日時 11月7日(土) 9:00~12:30
- (3) 場所 本校北キャンパス 体育館(雨天のため)
- (4) 内容 合同練習のメニュー
- ① 集合・挨拶・自己紹介
  - ② ランニング・準備体操
  - ③ 準備運動(しっぽ取り・アルティメット)
  - ④ キャッチボール
  - ⑤ 守備練習 内野ノック
  - ⑥ バッティング練習 羽バッティング
  - ⑦ 簡易ゲーム
  - ⑧ 集合・まとめ・挨拶・片付け







#### 4. 教科において障がい者スポーツの実施Ⅱ

- (1) 対象 介護福祉科 1年21名 2年23名
- (2) 日時 1月28日(木) 6・7校時
- (3) 場所 本校体育館
- (4) 内容 ガイドランナー体験・ゴールボール

※人間科学科が中間考査のため、介護福祉科1クラスしか授業がない日に実施予定。人間科学科は、来年度介護福祉科が校外実習の時に実施予定。

#### 6 主な成果

##### 1. 2. 4. 障がい者スポーツへの関心と理解の深化

本校は将来、対人援助職に就きたい生徒が多い専門学科(人間科学科・介護福祉科)であるため、3年生になると2学期の体育1単位にて障がい者スポーツを実施している。また、授業や実習の関係で1クラスのための授業があるため、少人数で実施する障がい者スポーツを実施している。少ない時間数ではあるが、専門学科の中で3年間学んできた「福祉マインド」をスポーツの分野においても理解を深めることができた。また、取組の中でアイマスクや車いす等を使用しながら行うことによって、ただ不便に感じるのではなく、身体の使い方や声かけの工夫などを互いにアドバイスをし合ったりする姿が見られた。

車いすバスケットについては、今年度予算でセストボールゴールを購入。これまで筋力不足で、通常のゴールにシュートが届かなかった生徒にも、試合の中でシュートチャンスができた。全体的にもゲーム性が高まり盛り上がった。

	<p>3. スポーツ交流を通じた仲間の育成</p> <p>今年度は残念ながら、新型コロナウイルス感染症の関係で「京都府立学校ソフトボール交流大会」もなく、なかなか合同練習もできない1学期を過ごした。部員からは、合同練習を待ち望む声が聞こえ、顧問同士がタイミングを図って連絡を取り合っていた。感染症の少し落ちついた11月に実施を決定。例年、菟道高校が合同チームを組まれている宇治支援学校にも声をかけたが部員不足で不参加。当日は、検温・消毒・換気等、感染症対策を行いながら、4校合同で練習会を実施することができた。開始時に全員がTシャツに「呼び名」を貼り、名前呼び合う工夫をしたことで、スムーズに仲間作りができた。障がいの有無や所属学校に関わらず、一緒に身体を動かすことで、自然と心の距離が近くなり、参加した全員が笑顔で活動をしていた。本校を含め3校女子ソフトボール部は部員数が少なく、たくさんの人数で練習できたことも有り難い機会であった。八幡支援学校の部員は、高校生からプレーや行動面での学びが多かったと語っていた。スポーツ活動をとおした共生社会の実現は、非常に有効であると実感するとともに、今後も続けていきたい相乗効果を生んでいる。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>1. 車いすバスケ</p> <p>ゲームで、通常のゴールとセストボールゴールの両方を使用。通常のゴールは、3点・2点・1点と正規ルールを採用し、セストボールゴールは、どの位置からでも1点のルールとした。試合の中で全員にシュートチャンスができ、ゲーム性が高まった。</p> <p>2. ボッチャ</p> <p>八幡支援学校高等部との授業で実施したボッチャは、密を避け、投げ手のみがコートへ入り、応援者はチームごとにサイドで待機するようにした。また、事前に体育で実施していたため、審判も本校生徒が行った。</p> <p>3. ゴールボール(用具の工夫)</p> <p>市販のビニールテープにラインテープで印を取りつけ、それを体育館のフロアに貼り付けることで競技に必要なコートを作成した。</p> <p>4. ソフトボール部との交流</p> <p>今年度は残念ながら「京都府立学校ソフトボール交流大会」もなく、なかなか合同練習もできなかったが、少し感染症が落ちついた11月に4校合同で練習会を開催することができた。当日は、開始時に全員がTシャツに「呼び名」を貼り、名前呼び合う工夫をしたことで、スムーズに仲間作りができた。障がいの有無や所属学校に関わらず、一緒に身体を動かすことで、自然と心の距離が近くなり、参加した全員が笑顔で活動をしていた。相互により効果を生んでいる。</p>

8主な課題等	<p>パラスポーツを実施するためには、専用の用具が必要となる種目が多い。そのため、他校で実施される場合は、経済的な課題が大きいと考える。本校は、本事業実施前から所有する用具と数年間に渡る本事業予算で購入した用具とを、専門学科の特性を活かし年間授業計画の中で全生徒に体験させることができている。大規模校など、たくさんの人数で一度に体験することは難しいため、実施の仕方には工夫が必要であると考えます。</p>
9来年度以降の 実施予定	<p>今年度同様、次年度以降も体育の中でニュースポーツ・障がい者スポーツを実施していく予定である。</p> <p>八幡支援学校との交流については、今後も部活動交流も含め、授業での交流、昼休み交流や行事交流を通じて日常的に実施していく予定である。</p>